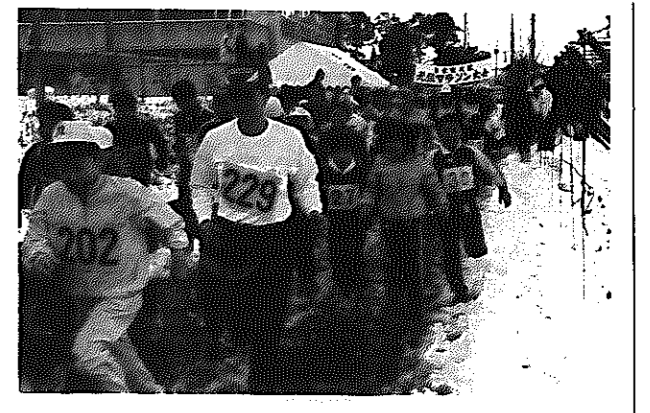


まちの話題

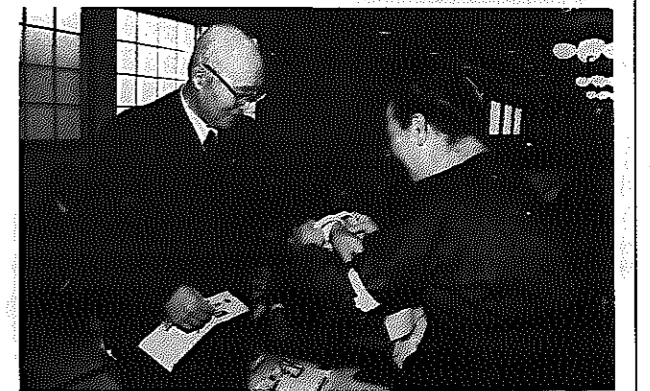
新年の計はマラソンにあり 新飯田地区 元旦マラソン

新飯田地区恒例の元旦マラソン。前夜からの雪で開催が心配されましたが、今年も無事行われ、参加者約130人は、新年早々さわやかな汗を流しました。



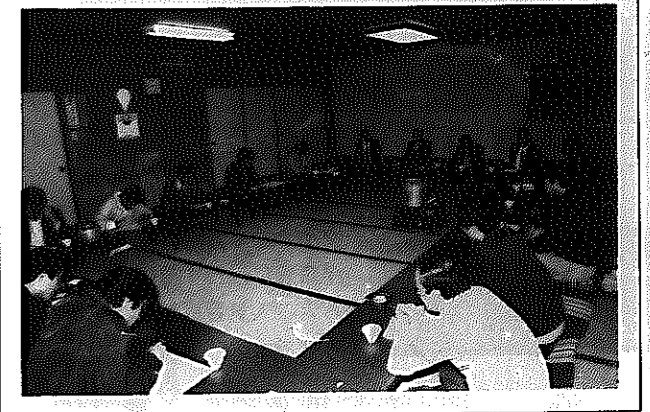
交通安全の誓い新たに 交通安全母の会が 反射リングをプレゼント

12月20日、交通安全母の会が老人クラブ連合会に反射リング200個を寄贈。激増するお年寄りの交通事故を防止しようと、誓いを新たにしていました。



農協合併を考える 青年農業会議が農協 組合長と懇談会

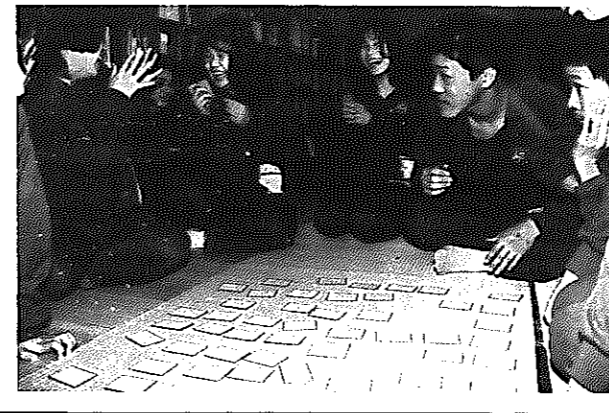
平成3年2月に予定されている農協合併をテーマに、青年農業会議が12月11日、市内4農協の組合長と懇談会を開き、活発な意見交換を行いました。



私たちの新しい伝統に

大鷲中学校 百人一首大会

大鷲中学校では1月12日、百人一首大会が開かれました。クラス対抗の楽しい雰囲気で行われたこの大会、大鷲中の新しい伝統になることでしょう。



市民の生命財産を守る 地区消防署・市消防 団合同出初め式

消防出初め式が1月6日、産業厚生会館で行われました。昨年は火災発生件数、被害額ともに前年を上回り、いっそうの予防消防の徹底を誓いました。



白根の大鳳全国に新春生中継 日本テレビ系 ズームイン朝

零下2度の気温の中、法被姿の大高組と白根一中生が揚げた大鳳が全国に舞いました。1月9日、日本テレビ系「ズームイン朝」生中継の一コマです。



我が国最古の ナシ栽培技術書

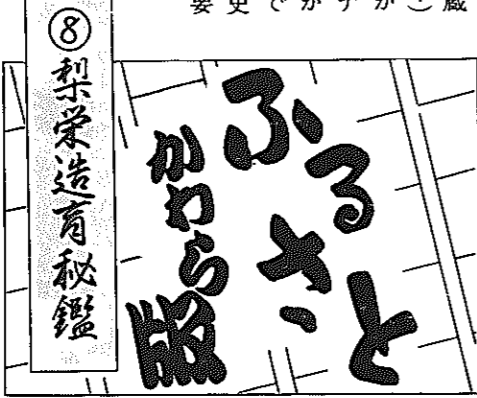
ナシの産地として有名な本市ですが、江戸時代、特に文化年間、白根は全国的にも有名なナシの生産地で、新潟県の大生産拠点となっていたのでした。そのルーツを尋ねてみると、とても貴重な古文書に出会います。

東置場の阿部健作さんが所蔵している天明二年(一七八二年)に書かれた「梨栄造育秘鑑」がそれです。この文書は整ったナシ栽培の技術書としては、我が国最古の文書といってもよいでしょう。そのため、果樹園芸史の専門家はこれを見たいへん重要視しています。

「梨栄造育秘鑑」の著者は阿部源太夫。阿部家の家伝によれば享保十七年(一七三二年)ごろの生まれで文化九年(一八一二年)に八十八歳で亡くなったといわれます。源太夫は数町歩の梨園を経営し、栽培技術の啓蒙を図ったそうです。

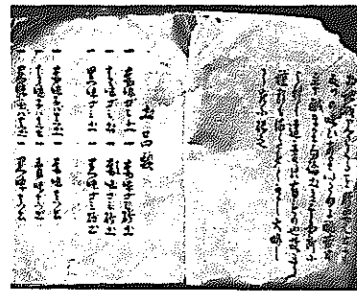
「他見絶秘」の 先端技術

それでは「梨栄造育秘鑑」の内容を簡単に紹介しましょう。この古文書は四編から成っていて、全体を通じて土壌、木の性質、栽培技術、商品価値などに



質、栽培技術、商品価値などについて詳細に記されています。初編は総論。ここで源太夫は彼の哲学ともいえる土のたいせつさを述べています。そして土壌、品種、施肥などについて簡潔に紹介しています。二編から四編は各論です。二編では早生種二十五種、中生種十九種、晩生種五十六種について

て、その品種ごとに適する土壌や木の性質、実の形状・味、保存期間、商品価値を詳細に述べています。三編は二編の中から特に商品価値の高い晩生種について、四編は害虫対策、接ぎ木やせんてい技術などの栽培技術が書かれています。また、この本の末尾には「右この書は血判のほか他見絶秘」とただし書きがあり、書かれている内容が最先端技術であった

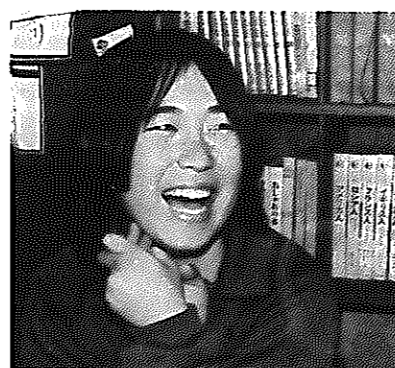


現代を予感した 貴重な資料

「梨栄造育秘鑑」に書かれている内容はたいへん高度なもので、まさに今の時代を予感したものとさえいえます。ここに書かれているものは、現代にもそのまま通用するものといえます。「梨栄造育秘鑑」はナシについて書かれた技術書としては、ほかに類を見ません。在来品種研究などの園芸史においては、欠くことのできない貴重な史料といえるでしょう。

今、時代の 学生、習生

教育委員会社会教育課 佐藤 正則



人類最初の水上の乗り物は、洪水などで上流から流されてきた流木だったと言われています。その丸太を利用してのうちに、手在水中に入れてかくとよく進むことを知り、かきが發明されました。またあるとき、流れてきた丸太の腐ってくぼんだ穴に、小動物が潜んでいるのを見て、丸太をくりぬくことに気が付き、丸木船を考え出しました。

さらに、ひっくり返らないように数本をまとめていかだにしたり、風を利用して帆掛け船を作るなどさまざま工夫がなされてきました。そして今日のような船を手に入れることができたわけです。

学習あつての進歩

この進歩の過程を人間のかかわり方から見てみましょう。初めは一人ひとりの直接経験だけで終わっていました。が、人間

社会の中で言葉が生まれ、進歩することができるようになりました。そして文字の發明は知識の確実な伝達と蓄積を可能にしたのです。しかしこのすばらしい言葉や文字の効果も、獲得した技術や知識を家庭や社会の中で伝え、学ぶという、人間相互の学習を抜きには考えられません。つまり先回述べた「人間社会で学ぶ」「学ぶ時期がある」「学ぶことを知っている」という条件を備えた無数の人たちの学習によって、今日の進歩、発展が支えられてきたということです。

何からでも学べる力を

以上のように、学習は生活の中から生まれてきます。とかく学習というと、難しいことをやるものと考えがちですが、生きた事実や体験から学ぶことが学習だといえるでしょう。このことは、今後さらにたいせつになりそうです。